

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	たけいし よういち
視察地	神奈川県横須賀市		
調査事項	Chat GPT の活用について		
視察年月日	令和5年10月16日		
視察内容	<p>レク／太田耕平横須賀市経営企画部デジタルガバメント推進室課長補佐ほか</p> <p>横須賀市役所は全国の自治体で初めて全庁的に生成AIを導入した先進地であり、その導入は現市長のトップダウンで決まったという。きっかけ、出発点は市役所本庁と市保健所が遠く離れた場所に立地しているため迅速な業務連絡・情報共有が滞ることから必要に駆られて。</p> <p>横須賀市では旭川市が試験導入している米国オープンAI社製生成AIと同じものを導入しているが、セキュリティ面、特に個人情報保護の観点から幾重にも指針を張り巡らせ日々の業務を前へ進めている。一方で、米国製であるがゆえ日本語への対応がチグハグな面もあるとのこと。奇しくも、この視察と同じ日に同じ神奈川県の相模原市役所において、海外産ではなく国産のNEC製生成AIを導入するとの報道発表があった。横須賀の先行事例等を参考にしたのではないか。</p> <p>旭川市は行財政改革推進部DX推進チームで試験導入されつつあるが、今やChat GPT導入は自治体DX化のひとつのソリューションとして欠かすことのできないツールになりつつある。旭川市の場合は、ここに新庁舎の竣工、そして移転が絡んでくるといふ、中々壮絶で、ある意味でとても象徴的な、いわば「旭川市デジタル元年」である。</p> <p>このレクは全般的に自治体Chat GPT導入の試行錯誤の苦労話やセキュリティの懸念克服の面に長い時間が割かれていて、遂に先駆者となった横須賀市職員の顔は自信と誇りに満ち溢れていた。他方で、いささかテクニカルな部分に偏り過ぎている印象を受けたのも事実。導入先行事例が殆どない手探り状態の中で突き進んだことは尊敬するが、成し遂げた達成感の結節点が、真に市民の利便性の向上、職員の業務効率化に資するものか、課題解決や目的の達成の手段としてその導入の有効性や優先性が高いものかといった視点が何より重要である。</p> <p>本市DXチームにおける有効性・安全性の検証を早期に終え、全庁的な導入が急がれる。</p> <p>ちなみに、令和5年市議会議員同期当選組の名前を決めようということなり、生成AIで作ってみてはと同期10名の氏名を入力しAIにチーム名をおはかりしたところ、ロクなものが出てこなく全てボツになった。業務効率化には向いていても、ネーミング等のクリエイティビティには向いていないのかもしれない。しかしITは日進月歩、いつの日かあさっぴーの弟分が登場する(?)頃には生成AIの第〇世代が得意な名前を生成してくれるかも知れない。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	たけいし よういち
視察地	大分県大分市		
調査事項	グリーンスローモビリティを活用した地域公共交通について		
視察年月日	令和5年10月18日		
視察内容	<p>レク／廣田暁則大分市都市計画部都市交通対策課参事、三ヶ尻政信都市計画部都市交通対策室長、成迫直美都市計画部都市交通対策課自動車総合対策担当班主査ほか</p> <p>急激な過疎化が進む合併町村である大分市大字佐賀関（旧佐賀関町<sup>さかのせきまち</sup>）で、地域住民の足である公共交通機関グリーンスローモビリティを視察した。小さな漁師町の海岸沿いを縫うように細い路をスイスイと走る可愛いバスの最高時速は20km/h。電気自動車だけに加速も鋭く「スロー」とは名ばかりのスピード感で、正に聴くのと乗るのでは大違いであった。もちろん排出ガスはゼロでクリーン。定員は着座で13名、運行便は基本午前と午後で3本ずつ、利用料は無料である。過疎化で公共の交通機関が維持できなくなったことから、過疎債等を使い、行政がマチの生き残りを掛けて実施する事業で、地域の足を確保して欲しいという地域住民の切実な願いの下、病院やスーパー、JR大分駅や役所を結ぶ。</p> <p>途中で地域の年配女性が5名乗車、聴くとお友達同士でお買い物。大きな玉葱の入った箱を持って乗り込む方も。「便利だよ！感謝してる」たくましく気さくな笑顔がとてもまぶしかった。</p> <p>公式LINEアカウントで運行状況を把握できるうえ、地域の高齢者が集まるイベント等でルートやダイヤ、乗り方等を説明しているそうだ。その集まりの光景を想像しただけで微笑んでしまう。</p> <p>このグリスロのパフレットには、詳細なダイヤはもとより、周辺を周遊する際の観光案内も併載しており、「お散歩プラン」や「ランチプラン」などが、佐賀関在住のイラストレーターによる大変可愛らしくもお洒落な挿絵入りで紹介されていて、若い層もターゲットにしているのは明らかだ。</p> <p>ふと東旭川地区のノリタクが頭を過ぎった。アレは大赤字だ。無料は難しいとしても我がまちで実施するならば過疎地域からだろうか。</p> <p>道内の先行事例は登別市、函館市、そしてDMO主体の上川町等で、いずれも観光がメインだ。そんなのどちらでもいい。実証実験として試験導入が急がれる。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	たけいし よういち
視察地	長崎県長崎市		
調査事項	地域公共交通の共同経営化について		
視察年月日	令和5年10月19日		
視察内容	<p>レク／金原哲治長崎市まちづくり部公共交通対策室長、谷口匠同市まちづくり部公共交通対策室係長</p> <p>長崎市内のバス路線維持と共同経営化に至る過程を視察した。</p> <p>民間の長崎自動車(株) (長崎バス) と長崎県交通局 (長崎県バス) 両事業者の路線重複による熾烈な乗客の奪い合いに輪を掛けて人口減少による慢性的な赤字体質が長く続き、そこにコロナ禍が追い討ちを掛けた。</p> <p>令和3年、長崎市に先行して共同経営国内第1号認可を受けた熊本地域に倣い、両者は運行路線の連携、ダイヤ設定の連携、そして運賃設定の連携等の連携協定を結んだ。</p> <p>共同経営化の交渉は苛烈だったという。無理もない、両者は長年鎬を削ってきたライバル会社だ。当初は、行政、長崎バス、長崎県バス、そこに共同運営には与しない路面電車の(株)長崎電気軌道も会議体に入り日夜議論を重ねたという。</p> <p>路線の棲み分けと確定は困難ばかりだったというが、各地域に散らばる地域にそれぞれ拠点を設け、朝晩の混雑時には直通、昼間は乗り換え方式としたり、それら拠点の停留所をデジタルサイネージ等の設置等を長崎市が整備する事を約束するなどして一つひとつ乗り越えていったそうだ。</p> <p>長崎市は日本有数の観光都市だ。有名な観光コンテンツが市内に点在している。それらコンテンツを公共交通網で結ぶ事業が、黎明期から隆盛期を経て、遂にコロナ禍の打撃で完全な過渡期を迎えた令和2年11月、独禁特例法が成立し事業者間で路線やダイヤ、運賃の設定等について直接協議を行えるようになり、地域公共交通計画と相まって九死に一生を得た。国の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を誠実に準用した成果だろうとも思う。</p> <p>一方、わがまちはどうか。民間2社が事業展開する旭川市とは様々条件が違うが、印象的だったのは行政側の情熱であった。ついに事業化を成し遂げた長崎市職員の表情は輝いていた。コロナ禍を逆手に取り懸案を解決に導いた物語を、旭川市においても調査研究していきたい。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	たけいし よういち
視察地	北海道登別市		
調査事項	グリーンスローモビリティを活用した地域公共交通について		
視察年月日	令和5年11月13日		
視察内容	<p>レク／登別市議会梅田秀人事務局長、登別市観光経済部観光振興グループ煤孫泰洋統括主幹、同グループ早坂晃正主査</p> <p>登別市、登別温泉は、ザ・ドリフターズのヒット曲「いい湯だな」の歌詞にも登場する全国的にも有名な温泉景勝地であり、北海道観光振興機構のデータによると、北海道に訪れる観光客、インバウンドの約7割が札幌・登別・函館のいずれかに立ち寄っているというデータがあり、札幌―函館の中間地点にある登別市には圧倒的な地理的アドバンテージがある。</p> <p>一方で、いよいよ新函館―札幌間の新幹線延伸が近づき、登別はその路線外、万が一、特急北斗が減便ないしは廃止となると、登別観光はかなりの打撃を受けるのではないかと推測される。そういった危機感もこのグリスロ導入検討に至った大きなモチベーションのひとつになっているのではと感じた。</p> <p>また、新幹線は太平洋側ではなく日本海側へ通じるルートであるが、分岐となる（新幹線追い抜き路線がある）長万部と登別エリアをバスで繋ぎ、その延長線上に観光資源としての可能性があるグリスロへと繋ぐことも調査しているとのこと。</p> <p>このように、グリスロ単体での運行に寄りかかるだけではなく、周辺の交通網と一体となって整備することを視野に入れた方策が今後の課題であり、この視察の前週、登別市副市長と同市観光経済部は、同じく温泉街を有する山形市を視察するなどして現状の改善と昇華のため飽くなき調査を続けている。</p> <p>旭川市は24年度に電動モビリティの運行、電動車椅子や電動カートを試験導入し回遊性の向上等、滞在時間の整備などを社会実験として試験運行する案があるようだが、それらとは多少時差が出たとしても、このグリスロもその仲間の末席に加えることも一考かと思う。</p> <p>登別市と比して、旭川とその周辺はアドベンチャートラベルの宝庫。バス網と中心市街地周遊のゼロエミッションのグリスロをキラーコンテンツとして、郊外のインバウンドを呼び込むことも検討に値すると感じた。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。